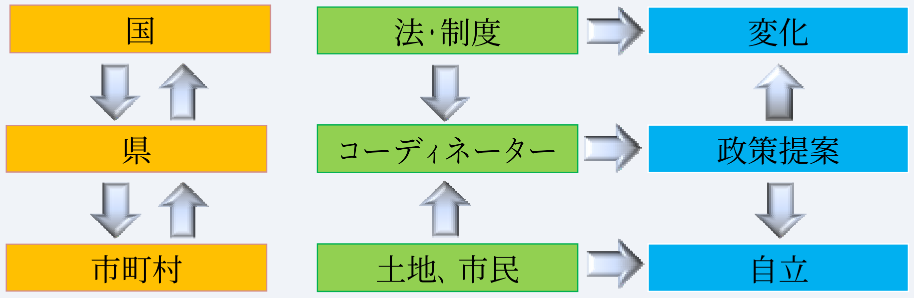
Higashimikawa Regional Research Center

東三河地域研究センター　戸田敏行

政策形成の手法について

1. 政策形成の背景
2. 個人政策スキル
3. 政策組織の機能

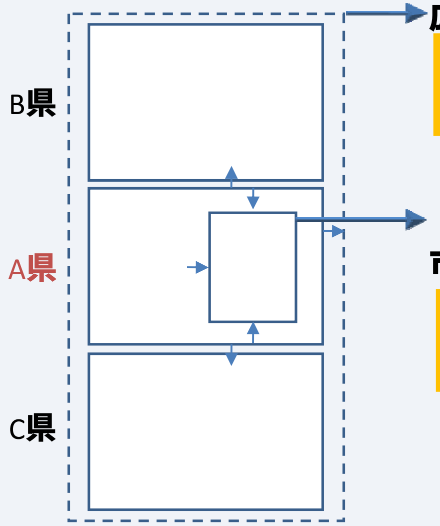
県政策の背景



調整型 → **政策提案型**

「一般に『提言』というものは、『政策当局はとうていここまでやれないだろう』との前提に立つことが多く、そこにこそ『提言』の存在理由があるとさえいえよう（飯田経男）」

政策空間のターゲット化



広域ブロック

・政策マトリマスの拡大
・国際的視点の導入

広域ブロック

国際視点

市町村連携

・広域的市町村の誘導
・国・県の政策総合窓口

横断力

将来の地域ブロック別生産年齢人口

（1,000人）

ブロック	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成17年を100 (%)	平成47年全国を100 (%)
北海道	3,701	3,515	3,241	3,007	2,819	2,615	2,400	65	4
東北	7,587	7,243	6,728	6,224	5,801	5,403	5,011	66	8
関東	29,191	28,403	27,206	26,531	25,961	24,862	23,220	80	37
北関東	5,192	4,987	4,677	4,415	4,204	3,972	3,694	71	6
南関東	23,999	23,416	22,529	22,116	21,757	20,890	19,526	81	31
北陸	1,981	1,885	1,750	1,659	1,581	1,490	1,386	70	2
中部	11,315	10,948	10,432	10,118	9,839	9,403	8,833	78	14
近畿	13,901	13,182	12,365	11,868	11,443	10,807	10,003	72	16
中国	4,847	4,614	4,290	4,061	3,870	3,668	3,430	71	5
四国	2,546	2,416	2,220	2,071	1,947	1,824	1,694	67	3
九州・沖縄	9,353	9,081	8,575	8,096	7,703	7,333	6,935	74	11
全国	84,422	81,287	76,807	73,635	70,964	67,405	62,912	75	100
全国総人口	127,767	127,177	125,430	122,735	119,269	115,223	110,680	87	

本推計では、平成12（2000）～平成17（2005）年の**男女・年齢別純移動率が今後も縮小を続けると仮定して推計を行った**。具体的には、平成22（2010）～平成27（2015）年の男女・年齢別純移動率を平成12（2000）～平成17（2005）年の男女・年齢別純移動率の0.7倍とし、この間の純移動率を直線的に変化させることとした。ただし平成27（2015）～平成32（2020）年以降については、社会経済状況の変化に大きく影響を受ける可能性があるなど見通しが困難であるため、平成22（2010）～平成27（2015）年の男女・年齢別純移動率が一定のまま変化しないと仮定して推計を行った。

広域ブロックでの合理化

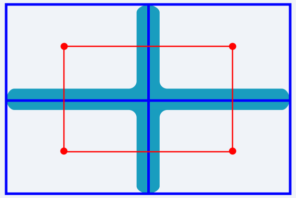
関西広域機構　分権改革推進本部
・2009年中の「関西広域連合」設立を目指す。
・2009年3月26日（福井県、三重県　留保）

政策	愛知県	B県	C県
1			
2			
3			
・・			

- フェーズ1　早期実現可能な共同事務
  防災（関西広域防災計画）、観光、産業、
  医療（広域ドクターヘリ）、環境、資格試験、免許
- フェーズ2　事務拡充と新規処理
  港湾・空港一体的管理運営、
  国道・河川の一体的計画・整備
- フェーズ3　国支分局からの権限移譲
  医療法人（広域）の監督、
  電気・ガス事業の許認可

効果
1．機能分担
2．機能連携
3．総合化

政策事例：境界地域からの広域化



- ・政策の容易性、多種の展開
- ・リスクの分散、効果の短期化
- ・政策の自由度

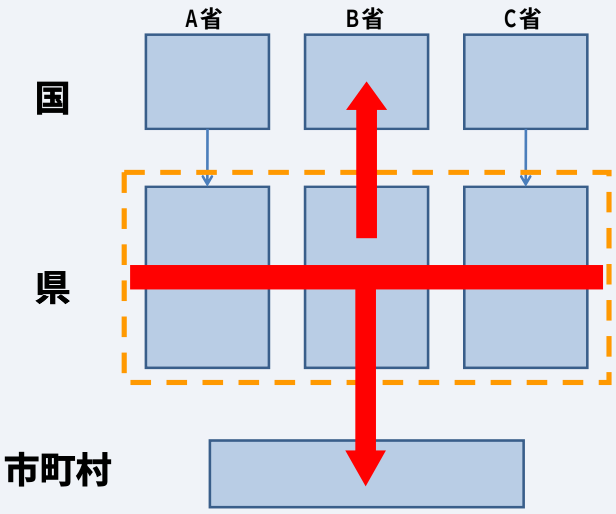
国際視点

政策事例：国際自動車コンプレックス計画

- 自動車企業の個別集積
- 三河港の特徴化と自動車総合化
- 海外での位置づけと評価（米国企業の事例）
- 国際自動車港湾ネットワーク
- 組織化と個別事業（観光文化、リサイクル）の拡大
- 意図せぬ展開

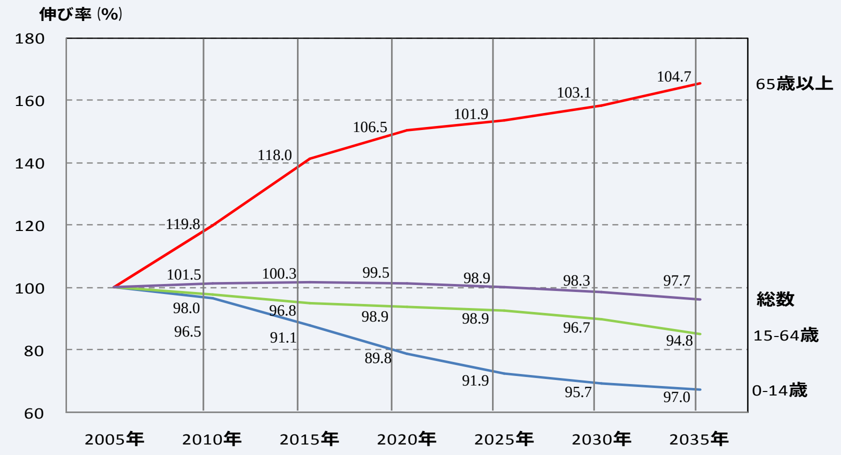
1995年　国際自動車コンプレックス構想
1997年　国際自動車コンプレックス計画推進計画開始、国際自動車コンプレックス促進協議会発足
1998年　国際自動車コンプレックス研究会発足
2003年　構造改革特別区域計画「国際自動車特区」、総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）
2004年　地域再生計画　国際自動車産業交流都市計画

横断力



T字型横断力

政策と時間



４年効果最大化→長期効果最大化（局所最適、全体最悪も）
30年マクロ構想の必要性

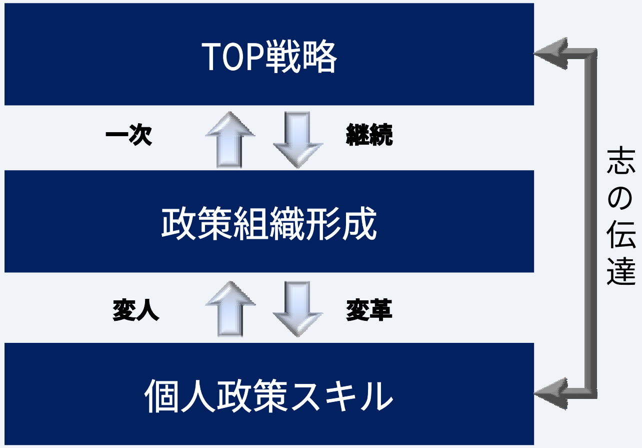
マクロ構想の事例

マクロ構想の利点

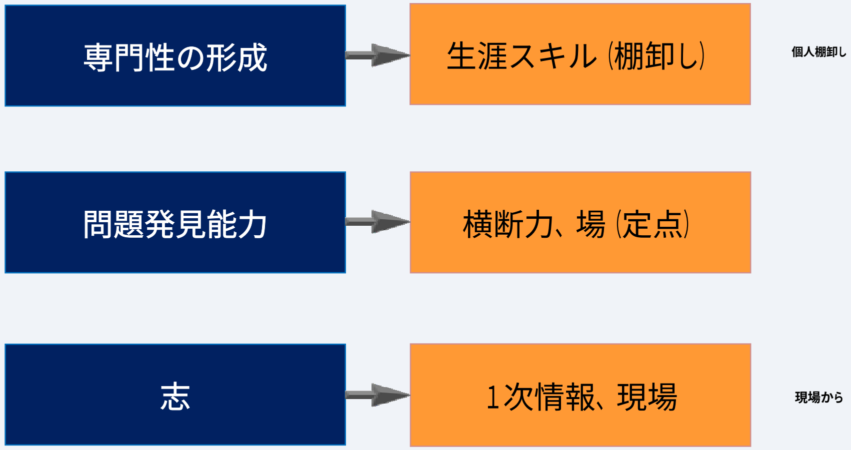
- 長期故の総合性と創造性
- 他組織間ネットワーク
- 人脈形成
  （6分科会、産学官約200人）
- 理念の浸透と個別発想
- 戻りうる全体像（攻めと守り）
- 継続条件は定点（人、組織）

・ハイテク　・都心インテリジェント・ヒューマンビヘイビア
・アーバンフロント　・グリーンシステム　・総合検討

政策形成の組織化



個人政策スキル



個人棚卸し（プランナーとして）

日常業務
課題・解決ルーチン（1年間）、作業・・・・

⇩ ⇧

棚卸し
仕事成果のリストアップ
まとめを書く→対外発表（贅肉を落とす）

⇩

生涯スキル
10年専門、20年第一人者

個人スキル

現場から

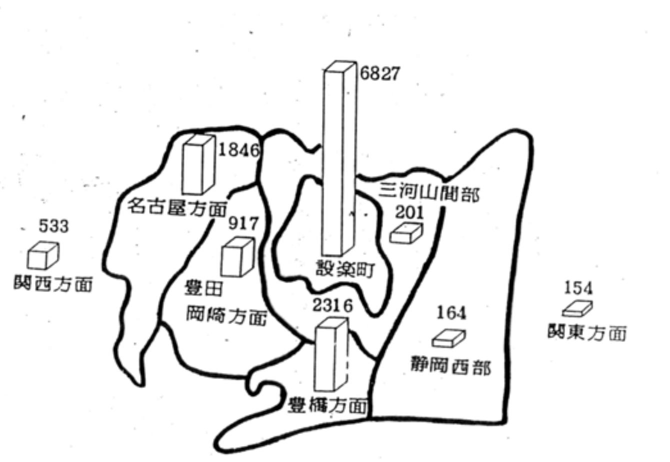


図3－8　町外居住者の現住所（昭和57年7月現在）

一つの感銘を受けた事実が、バラバラにある情報を体系つける

政策組織形成

Knowledge management →	成功例の蓄積 失敗例の蓄積	失敗事例
横断的組織 →	オフオンサイトミーティング	オフサイト
外部連携 →	政策の共創	外部ネットワーク

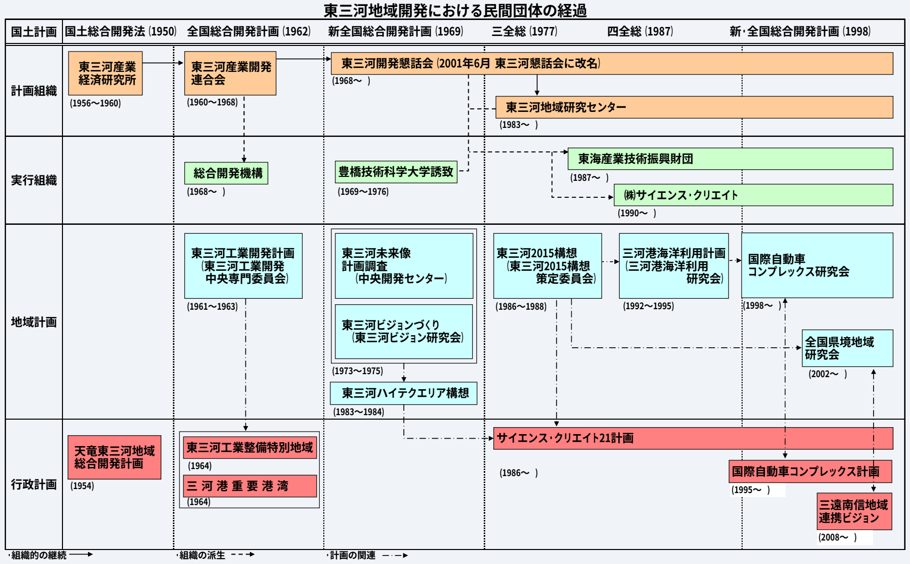
失敗例の蓄積

失敗と創造性を巡って

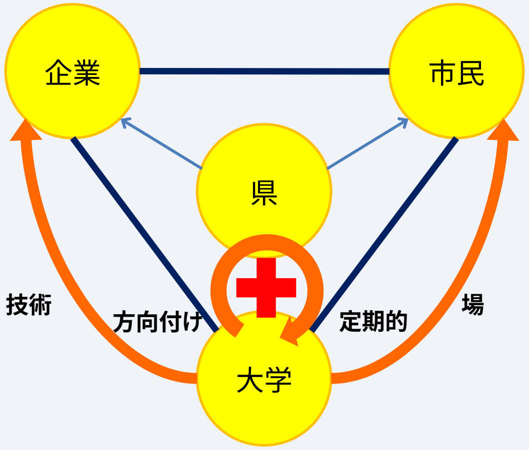
- 「失敗は、新たな創造行為の第一歩。失敗を恥である、減点の対象とする失敗文化を変える。」失敗学の進め：畑村洋太郎
  →フロントランナーに事例無し
- 「発想はゴミ箱から」　城島国弘
  →発想の確認（単に条件が整っていない）
  　障害の発見
- フォローアップの習慣性

横断組織

東三河地域研究センターの経緯



大学との共同したソーシャルマネージメント



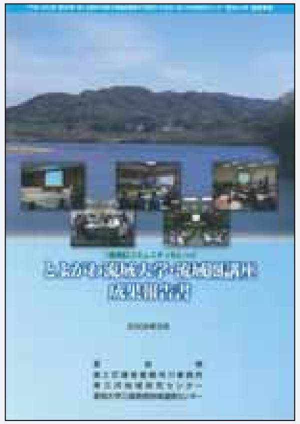
◎大学と地域

研究者個人 → 研　究　室 → 大　　学 → 地域ぐるみ

◎愛知政策フォーラム

- 政策方向付けが必要
- インターンを受け入れる
- 派遣
- 共同作業

市民活動と大学



市民活動と大学

サンプル：上流1600（回収80%）、下流9000（回収79%）

豊川上下流の一体感が必要

田原LC例会 穂積新城市長が講演

穂積亮次・新城市長が16日、田原市商工会館で開かれた田原ライオンズクラブ（中神安一会長）の例会で講演し、東三河政令都市構想への議論が進む中、豊川水系で結ばれる上下流域の一体感が必要だと説いた。

穂積市長は講演で、愛知大学三遠南信地域研究センターがまとめた豊川水系の恩恵に関する意識調査をもとに、田原市域で8割強が現在の発展を水資源によるものと考えていることを示した。

一方、10～30歳代の若い世代の半数が強く恩恵を感じていない結果から、「豊川用水開通前と違って水に不自由しなくなり、恩恵が薄れている」点を指摘した。

さらに、豊橋など都市部でのアンケートから合併を前提に山間地の機能強化策を優先させる意識が高いことを踏まえ、「多くの住民が圏域の共存共栄を望んでいる」といい、上下流域の一体感が必要だと強調した。

豊川上下流域の一体感が必要と呼び掛ける穂積新城市長＝田原市商工会館で

平成21年7月17日東愛知新聞

株式会社サイエンス･クリエイト

（19年度開始） 食･環･農クラスター形成－豊橋－

＜推進体制イメージ図＞

国 / 愛知県 / 豊橋市 → 支 援

農業者等 / 食品加工業者 / 流通,販売業者 / 農業関連企業 / 大学,研究機関

豊橋市
食農産業クラスター推進協議会

- ●事務局：（株）サイエンス･クリエイト
- ●構　成：豊橋市の農業分野をはじめとする異業種
- ●役　割：異業種の出会いの場、リサーチ機能
- ●活　動：*連携コーディネート、気運の醸成*
  地域ブランドの育成等

正会員　110団体
賛助会員　19団体
オブザーバー　10団体
（平成21年1月21日現在）

食農産業クラスター推進フェアの開催
- ●主催：豊橋市,推進協議会
- ●内容：シンポジウム,セミナー,交流会等

戦略的農畜産物新商品開発研究会
大葉プロジェクト　うずらプロジェクト
キャベツプロジェクト　トマトプロジェクト

Copyright (C) 2009 SCIENCE CREATE All Rights Reserved

株式会社サイエンス･クリエイト

【　研究開発･市場開拓の方向　】

循環型農業技術	･地域循環型農業技術、たい肥化技術、飼料化技術
食品加工技術	･ペースト化、粉末化、ソフトスチーム等
栽培･飼育技術	･人工光型施設（植物工場）、施設制御技術、栽培用新エネルギー技術（燃料電池等）、ロボット活用技術 ･機能性農産物並びに栽培技術等
品質･検査技術	･非破壊検査技術、金属探知技術（異物検査等）等 ･温室環境センシング技術、生育状況リアルタイムセンシング技術等
流通技術	･CASシステムによる貯蔵システム ･ジャスト･イン･タイムによる流通システム化等
情報技術	･独自販売ルートや支援システム ･ITによる安全･安心システム等
人材育成･開発	･人材確保（団塊の世代、アジア人材の受け入れ等） ･フード･ビジネス人材の育成機会･育成の場づくり等
異産業との連携	･観光産業との連携：グルメ･食農体験ツアー、健康ツアー、文化･景観等との連携による広域観光ルート化等 ･異分野からのフード･ビジネス参入支援（異業種からの参入促進）
市場開拓	･アンテナショップ･情報発信拠点 ･域外･海外市場の開拓

ネイチャーテック

Copyright (C) 2009 SCIENCE CREATE All Rights Reserved

メカニズムの共有

企業戦略と時間、道路整備のメカニズム共有

ご清聴ありがとうございました。